

よって、概念上、“嘲笑”という出来事の限りなき存在が保証されるので、[進行]の時態表現が成立する。

今度は“在”が伴う目的語について考えてみたい。ここでは“在”の後には“这儿”「ここ」があると判断するのが妥当である。つまり，“你嘲笑她”という出来事が、発話者側の“这儿”に存在し，“嘲笑”の対象である“她”が“那儿”「あそこ」側である、と解すのである。よって，“你在嘲笑她”は、「あなたが、ここにおいて、あなたが彼女を嘲笑している」という意を含んでいると見なし、

(9a) 嘲笑スル ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ

有'【在' [你, 这儿, 嘲笑' (你, 她) & 在' {嘲笑' (你, 她), 这儿}], 将来】

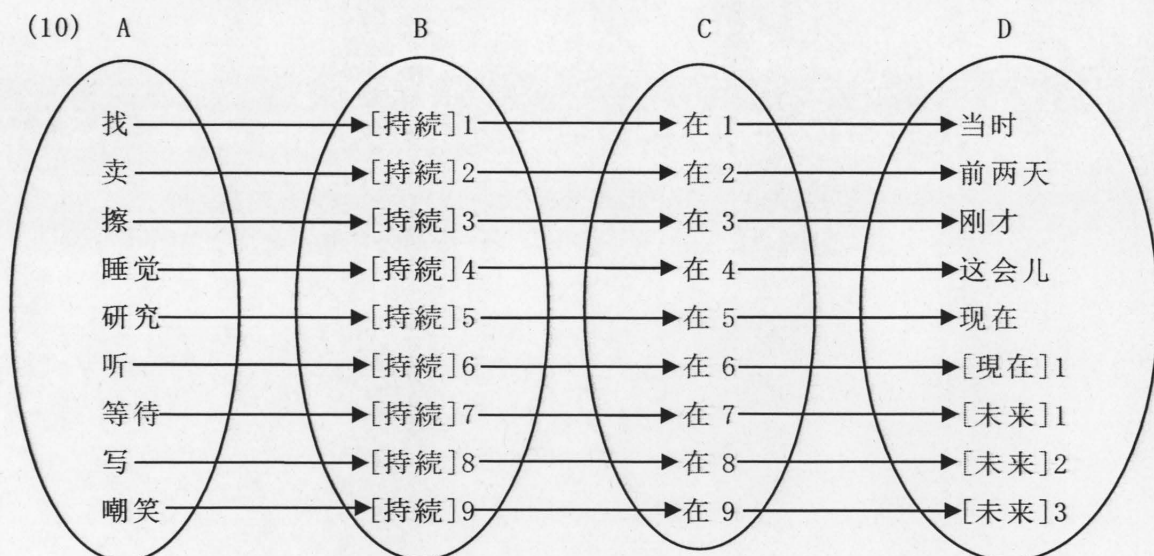
アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

アル ～ガ ～トイウ時制ニ

と表記できる。(9a)の式は“嘲笑”(你, 她)”が「あなたが彼女を嘲笑する」という意を, “在' {嘲笑' (你, 她), 这儿}”が「それ(あなたが彼女を嘲笑する)がここに存在する」という意を, “在' [你, 这儿, 嘲笑' (你, 她) & 在' {嘲笑' (你, 她), 这儿}]]”が「あなたが、ここにおいて、あなたが彼女を嘲笑し、かつそれ(あなたが彼女を嘲笑する)がここに存在するという様態にある」という意を, “有'【在' [你, 这儿, 嘲笑' (你, 她) & 在' {嘲笑' (你, 她), 这儿}], 将来】”が「あなたがここにおいて彼女を嘲笑しているが, [未来]という時制にある」という意味を表している。

6.3 集合論の運用による解析

6.2.1 から 6.2.3 において考察した文の生起過程を時間体系の観点から考えると、以下のように図示することができる。



(10)は四つの集合によって構成されている。左から順番にA、B、C、Dと記すことにする。まず、Aを見られたい。これは本章の(1)から(9)の分析で関わった動詞が列挙している。この各動詞は、Aの集合における要素(element)である。

次にBは、動詞に内在する[持続]の意味特徴の集合を表わしている。従って、Bの全ての[持続]はBの集合における要素であるといえる。なおBの要素はどれも[持続]であるが、これは時相(phase)を充足させる役割を果たしていると考えられる。つまり、具体的な一纏まりの出来事(event)を構成させる役割を果たしているのである。龔千炎(1995:17)はこのような[持続]の意味特徴によって形成する出来事のタイプを“活動情状”(activity situation)と称した。そこで、本章ではこの“活動情状”を「無限持続タイプ」と呼ぶことにする。つまり、この「無限持続タイプ」は動詞に内在する[持続]の意味特徴によって、概念上、際限なく[持続]する出来事を構築するのである。⁴⁾

今度はCを見られたい。この集合は時態成分の“在”が配列されているので、これらの“在”は全てCの集合の要素となっている。最後のDが表わすのは、時制を示す成分の要素によって構成された集合である。

さて、これら四つの集合の中の各要素は矢印によって、左から右、つまりAからB、BからC、そしてCからDへと順番に割り当てられている。これらの操作を写像(mapping)という。即ち、要素と要素の関係(relation)を指定しているのである。指摘すべき点は、このAからDまでの集合が写像していく順番は、必ずA、B、C、Dの順番で行われるということである。要するに、この四つの集合は「四つ組」(quadruples)であるということである。

方立(2000:45)は「順序付きペアにおける要素が並ぶ順番には意味がある」と述べた。つまり方立は、

$$\langle a, b \rangle \neq \langle b, a \rangle$$

と見なしている。そこでこの見解に従って、(10)のAからDまでの関係にも順番が定まっていると考えることができる。即ち、まずAはBへ写像して、次にBがCへ写像する。そして、最後にCがDへ写像することになる。

では以上の解説を基に、(10)で示した各集合の関係についてより詳しく考えてみたい。そこでAの一番上にある“找”という動詞を例にして、これがB、C、Dの集合へと順番に写像していく過程を検討しよう。この動詞は本章の6.2.1の(1)で分析した“当时她在找《简·爱》”において生起したものである。従って、以下、時間体系の観点から“当时她在找《简·爱》”の構成プロセスを検討することになる。

まず、意味上、動詞“找”が、[持続]の意味特徴を保持することによって、時相が成立する。これは(10)において、Aにおける“找”からBにおける“[持続]1”への写像によって表わされている。これにより“当时她在找《简·爱》”の文に

おける時相が充足したことになる。次に、動詞“找”に内在する“[持続]1”という意味特徴がCにおける“在1”へ写像する。この写像は、時相表現から時態表現へ到ったことを意味している。そして、Cの時態成分の“在1”がDの時制成分である“当时”へ写像すると、時態表現から時制表現へ移行したと理解することができる。以上の写像のプロセスは論理式の表記と密接に関係している。そこで6.2.1の(1)で解析した“当时她在找《简・爱》”の論理式を再度表記しておこう。

(11) 探ス ～ガ ～ヲ
 有'【在' [她, 这里, 找' (她, 《简・爱》)&
 アル ～ガ ～ニオイテ
 アル ～ガ

存在スル ～ガ ～ニ
 在' {找' (她, 《简・爱》), 这里}], 当时】
 ～トイウ様態ニ

～トイウ時制ニ

この論理式は「彼女がここで《简・爱》を探しているが、“当时”という[過去]の時制にある」という意味を表している。

この式から、時制を示す成分の“当时”が最も広範囲に他の成分に対して意味的影響を与えていることに気づく。これは、他の研究者の見解を形式的な手法によって反映させたといえる。つまり“在”が時態成分として、概念上、[過去]、[現在]、[未来]といった時制に囚われずに生起できるのは、(11)の論理式が表わすように、時制成分が式の一番外側に位置し、時態成分の“在”によって構成する論理式全体に対して意味的影響を与えているからであると推論しえる。

また、(11)の論理式の中には時相(「無限持続タイプ」)を充足する“找'(她, 《简・爱》)&在' {找' (她, 《简・爱》), 这里}”という式が埋め込まれている。故に、時態表現は時相表現を包摂していると理解できる。このように解釈した根拠は、龚千炎(1995:44)が時態について「出来事(event)のある段階における特定の状態を表わす。」と述べたことを後ろ盾にすることができる。要するに、時態は、出来事に対する様々な捉え方によって表れる様態なので、時態を表現するには、その前提として、具体的な出来事が確立していなければならないのである。つまり、時態を表現する前に時相の充足が求められるのである。

以上の考察により、時間体系から見た“当时她在找《简・爱》”の文の生起過程は、まず動詞の“找”が持つ[持続]の意味特徴によって時相が成立し、次にその時相を[複数の出来事の存在]、つまり、[進行態]として捉えることで時態が成立し、最後にはその[進行]を表わす時態が“当时”という[過去]において生じたと見なすことで時制が成立する、という過程を経ることを証明した。そしてこの

過程は、集合における写像の概念と論理式で解析できるということが分かった。

6.4 第六章の結び

本章では“在”は[進行]の意味を表す時態副詞であるという仮説のもと，“在”と時制との関わりについて詳述した。主として、絶対時間と相対時間の二つの視点から副詞“在”が生起する文を考察した。その結果、絶対時間から考察すると、発話時間と時態副詞“在”が生起する文(出来事時間)との時間関係は、[過去]における[進行]，[現在]における[進行]，或いは[未来]における[進行]を表現できることが分かった。一方、相対時間から考察すると、参照時間と時態副詞“在”が生起する文(出来事時間)との時間関係は、[簡単]の関係を構成するということを示した。

そして、時間体系の立場から言うと、副詞“在”が生起した文の成立は、時相表現から時態表現，そして時態表現から時制表現という過程を辿ることを集合論と論理式を運用しながら証明した。

注

1) 本章は青木(2013b)の『時態成分“在”の時制構造における意味と論理』に加筆、修正を行ったものである。

2) 論理式における括弧は“()”、“{ }”、“[]”、“【 】”、“《 》”、“〈 〉”の六つを使用する。そして“()”が最も作用域が狭く，“〈 〉”が最も作用域が広いと仮定する。即ち下記の(a)のように考える。

(a) () < { } < [] < 【 】 < 《 》 < 〈 〉

(a)は，“()”は“{ }”より作用域が狭く，“{ }”は“[]”より作用域が狭く，“[]”は“【 】”より作用域が狭く，“【 】”は“《 》”より作用域が狭く，“《 》”は“〈 〉”より作用域が狭いことを表している。

3) 原著《四世同堂》ではテレビドラマ《四世同堂》とは異なり，“在”の代わりに“是”が使われている。つまり、テレビドラマの“我现在差不多在专心研究佛法”における“在”が小説においては、

我现在差不多是专心研究佛法。(小説《四世同堂》29頁)

となっている。従って、(5)の“我现在差不多在专心研究佛法”における“在”は動態的な[進行]ではなく、静態的な[進行]，厳密に換言すると、第五章で主張したように，“在”は[複数の出来事の存在]の意を表す，と解釈することの妥当性を感じ取れる。即ち[進行]の意を表す“在”は、発話者が発話時点において、概念上、複数の“我研究佛法”という出来事を全て様態的に存在させるといった操作を行った，と考えるのである。

4) 時相についてのより詳しい考察は青木(2014d)を見られたい。

7.0 はじめに

現代中国語における副詞“在”と“正”は、口語、書面語を問わず使用頻度の高い成分である。しかし両成分に対する解釈は各研究者によって異なり、“在”を[進行]や[持続]といった言葉を用いて解釈する一方で、“正”も[進行]や[持続]といった言葉を用いて解されることが多く、適切な定義がなされていない状況にある。²⁾しかも“在”と“正”は時として一つの文において共起するため、両成分の意味役割を明確に定めることは容易ではない。そこで本章は論理的な観点から“在”、“正”が果たす意味役割について考察し、両者の差異を判然とさせる。結果、“在”の[複数の出来事の存在]の意は、通常、存在量化子(existential quantifier)によって解釈することができ、“正”の[複数の出来事の包括]の意は全称量化子(universal quantifier)によって解しえることを提示する。次節では“在”について論じる。

7.1 “在”の解析

用例は全部で五つある。まず(1)の例を見られたい。

(1) A: 妈妈, 你回来了!

B: 冬冬, 你怎么这么晚还不睡啊?

A: 我在等你啊, 准备跟你说晚安。(テレビドラマ《爱的创可贴》第13話)

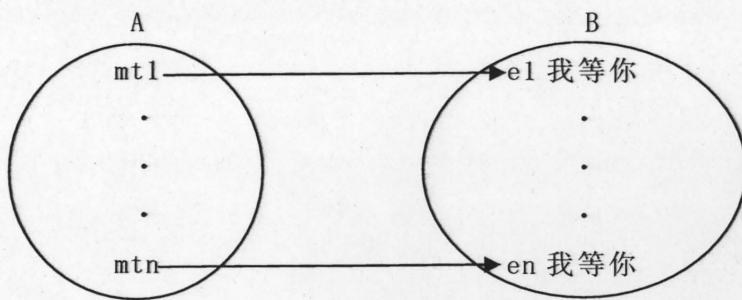
(A: 「ママ、おかえり!」)

(B: 「冬冬、どうしてこんな遅いのになまだ寝ないの?」)

(A: 「ママを待っていたんだよ、お休みを言おうと思ってね。」)

(1)では“我在等你”が問題となる箇所である。ここで生起する“在”は[複数の出来事の存在]の意を示していると考えられる。それは“我等你”が[持続]の出来事を構成しているからである。そしてこの“我等你”が[持続]しえるのは、動詞“等”自体が[持続]の意味特徴を有しているためである。(1)の用例の引用先であるドラマ《爱的创可贴》によると、この場面は、息子が母親の仕事帰りを夜遅くまで待っていたところである。この事実は(1)の“你怎么这么晚还不睡啊”と“准备跟你说晚安”の文からも理解することができる。従って、“我等你”という出来事が[持続]したが故、複数の“我等你”を存在させることができる、と考えられるので、“我在等你”は次のような集合を構成することができる。

(1a)



(1a)は二つの集合から成る。これらの集合は複数の要素(element)によって構成されている。左の集合をA, 右の集合をBとする。Aの集合はいずれも“mt”という要素が含まれている。この“mt”はある一つの様態的な時間点を示している。従って、様態の‘manner’と時間の‘time’の頭文字として“mt”と記すことにする。次にBを見られたい。この集合には出来事(event)が要素として存在している。よって“event”の頭文字である“e”を用いて表すことにする。

今度はAからBに向かって延びる矢印について説明しよう。この矢印はAからBへの写像(mapping)を意味する。要するに、この矢印はAからBへの函数(function)である。

さてここでもう一度(1a)の図全体を見られたい。“mt”が一つ以上“我等你”へ写像されている。よって、“我等你”という出来事が複数存在していることが分かる。そこで、“我在等你”の文に対して存在量化子を用いると以下のような式を作ることができる。³⁾

(1b) アル ~ガ 待ツ ~ガ ~ヲ

$\exists x [mt'(x) \& 有' \{x, 等' (我, 你)\}]$

持ツ ~ガ ~トイウ出来事ヲ

これは「少なくとも一つの“x”について、“x”が“mt'”であり、かつその“x”が“我等你”という出来事を持つ」と読むことができる。以下この式について詳しく説明しよう。

ここでの“ $\exists x$ ”は「少なくとも一つの“x”についていうと」という意である。この“ $\exists x$ ”に後続する“ $mt'(x)$ ”は“x”が“mt” (様態時間) である」という意を表している。そしてこの“ $mt'(x)$ ”の右側にある“有' {x, 等' (我, 你)}”という式は“x”が“我等你”という出来事を持つ」という意味を示している。また、“ $mt'(x)$ ”と“有' {x, 等' (我, 你)}”の間に置かれた“&”は「連言」(conjunction)を意味し、“ $mt'(x)$ ”という単純命題と“有' {x, 等' (我, 你)}”という複合命題が同時に成立していることを表している。なお、“等' (我, 你)”は「僕があなたを待つ」という意味を示している。

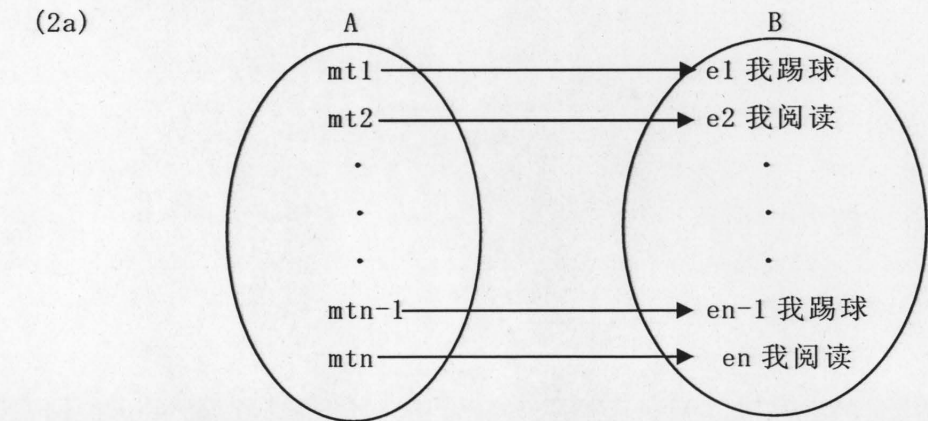
以上、“我在等你”における“在”が[複数の出来事の存在]の意を表すことを集合と存在量化子で解釈した。次の(2)では“我虽然一直在踢球”の“在”が問題と

なる箇所である。この文では“一直”と“但我从来没有放弃过阅读”という表現によって、“在”が示す[複数の出来事の存在]の意の成立をはっきりと理解することができる。

(2) 要说起这个开公司啊，主要是因为我爱读书，我虽然一直在踢球，但我从来没有放弃过阅读，再加上我对图书市场又比较了解，一想，干脆开个图书公司得了。(テレビドラマ《家有儿女 第一部》第65話)

この文の発話者は元サッカー選手である。まず“在”が生起する“我虽然一直在踢球”(僕はずっとサッカーをしてきたけど)の箇所を見ると、“一直”が生起しているの、“我踢球”という出来事が以前から引退するまでの間において、毎日の如く継続して行っていたことが分かる。故に、概念上、“我踢球”という出来事を複数存在させることが可能となる。

そこで注目すべきは、“我虽然一直在踢球”の後にある“但我从来没有放弃过阅读”(だけど僕は読書を疎かにしたことがない)の箇所である。これにより、プロサッカー選手として現役時に“踢球”を行っている間においても、“阅读”を定期的に行っていたということが判然とする。従って、集合論にあてはめて考えると次のような集合を構成しえる。



(2a)の集合により、“mt”において“我踢球”という出来事が複数存在していることが理解しえる。また、“我踢球”という出来事以外に“我阅读”という出来事が存在していることが分かるので、“我踢球”という出来事が断続的に複数存在していると見なしうる。これは第一章の1.1.1における潘文娛(1980:47)の“在”が表わす持続性は離散的なものでもよい。しかし、それは日常的に行われているような動作である。」や1.1.15で朱景松主编(2007:531)が述べた「動作の状態は厳密にその時刻において生じていなくてもよい。」といった記述を形式的に反映させたといえる。

では“在踢球”の部分存在量子によって表示してみよう。

(2b) アル ～ガ スル ～ガ ～ヲ

$\exists x$ [mt' (x)&有' {x, 踢' (我, 球)}]

持ツ ～ガ ～トイウ出来事ヲ

(2b)の式は、「少なくとも一つの“x”について、“x”が“mt'”であり、かつその“x”が“我踢球”という出来事を持つ」という意味を表している。そして“踢' (我, 球)”は「僕がサッカーをする」という意を表している。

さて次は(3)の“你在一天天的长大”における“在”を考察する。ここでは“一天天”が[複数の出来事の存在]の成立を決定づける重要な成分である。

(3) A: 妈妈, 我觉得我一点儿都不像你。

B: 美美呀, 你越来越漂亮了, 你在一天天的长大。妈妈想, 想把这件事儿告诉你, 你确实不是妈妈亲生的。(テレビドラマ《鉄面歌女》第30話)

(A「ママ、私ちつともママに似ていないと思うんだけど。」)

(B「美美、あなたはどんどん綺麗になって、日に日に大きくなっているわ。

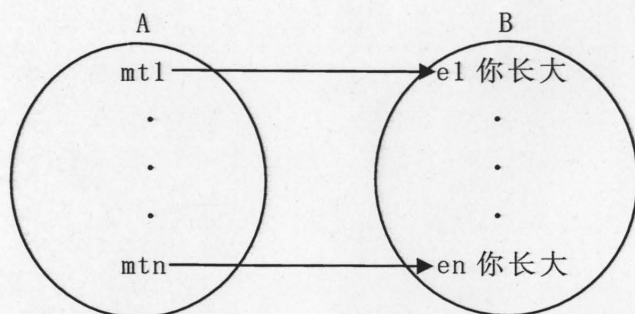
ママは、ママはその事について伝えたいと思うの。美美は確かにママが生んだ子供じゃないのよ。」)

この“你在一天天的长大”における“在”もやはり[複数の出来事の存在]の意を表すと理解する。その証拠は“一天天”の生起にある。なぜなら、“一天天”は「日に日に」といった意を示しているので、“你长大”という出来事が何度も規則的に起こっていることが保証されるからである。つまり、発話者は(3)の場面において、“美美”がすすくと成長する過程を静態的に表現したのである。

注目に値することは、“你在一天天的长大”において動詞の役割を担う“长”は[持続]の意味特徴を有しているため、“长”単独では永遠に[持続]を維持することになる。しかし、この文では“长”の後に形容詞の“大”が結果補語として生起しているので、“长”は限られた[持続]となる。故に、すでに出来事が[終息]した“长大”と[複数の出来事の存在]の意を示す“在”の共起は論理的に矛盾するようには思える。が、“你在一天天的长大”には“一天天”が生起しているので、“长大”を複数の出来事の存在として捉えることができる、ということである。⁴⁾

では以上の見解を拠所にして“你在一天天的长大”を集合にあてはめて考えることにしよう。

(3a)



集合 A の要素である “mt” が一つ以上 “你长大” という出来事に向かって写像されている。従って、[複数の出来事の存在]の意を表していることが分かる。つまり、この集合 A から集合 B への写像は、発話者が、我が娘と見なす “美美” が健やかに成長する過程を静止画として様態的に捉えたことを示している。以上を踏まえて存在量子化による解釈を行うことにしよう。(3b)を見られたい。

(3b) アル ～ガ 育ツ ～ガ アル ～ガ ～トイウ結果ニ

$\exists x$ [mt' (x) & 有' [x, 长' (你) & 有' {长' (你), 大}]]

持ツ　～ガ　　　　　～トイウ出来事ヲ

これは「少なくとも一つの“x”について、“x”が“mt”であり、かつその“x”が“你长大”という出来事を持つ」という意味を表している。そして“长’（你）”は「あなたが育つ」という意を示し、“有’{长’（你），大}”は「それ（あなたが育つ）が大きくなるという結果にある」という意を示している。

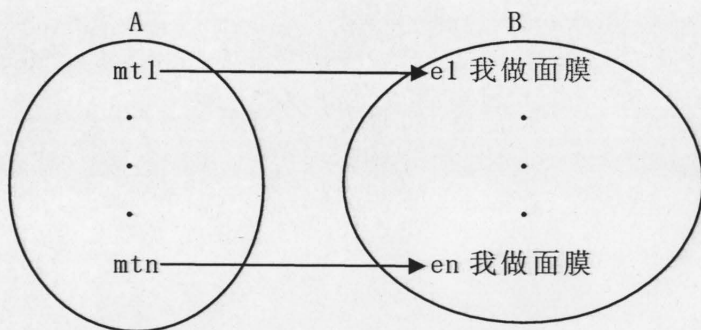
以上の考察により、“在”が示す[複数の出来事の存在]の意味は集合と存在量子子を用いて解析しえることが分かった。そのため、“在”が生起した文の出来事は必ず複数、つまり一つ以上存在しているので、時として[持続の状態]の意を明示する“呢”を文末に付記させることができる。⁵⁾(4)の例を見られたい。

(4) 妈啊，我在做面膜呢，怎么了？（テレビドラマ《宝贝妈妈宝贝女》第4話）

(お母さん、私バックをしているところなの、どうしたの?)

(4)の引用先であるドラマ《宝贝妈妈宝贝女》によると、この場面は発話者がフェイスパックをしているときに母親からの電話を受けたところである。「パックをする」という行為は、通常、フェイスパックを一定の間顔に張り付けるので、概念上“我做面膜”という出来事が一定の間[持続]することになる。従って、発話者の概念では“我做面膜”という出来事をいくつも存在させることができると解しえる。故に“我在做面膜”は以下の(4a)のような集合となる。

(4a)



この集合から“我做面膜”という出来事が複数存在していることが看取しえる。また，“我做面膜”という出来事は変化せずに[持続]しているので，“我做面膜”という出来事が[持続の状態]にあると解しえる。この[持続の状態]を明示する役割を果たすのが“呢”である。即ち“呢”は、ある共通の命題内容が論理的に[持続]している状態にあることを明示すると考える。よって、論理的な観点からいう

と、“我在做面膜”に“呢”が付記すると、複数の“我做面膜”という命題内容が「同値」(equivalence)の関係にあるということがはっきりと示されると見なす。

ではこれまでの解析に倣い“我在做面膜”も存在量子によって記述することにした。

(4b) アル ～ガ スル ～ガ ～ヲ

$\exists x \{mt' (x) \& 有' \{x, 做' (我, 面膜)\}\}$

持ツ ～ガ ～トイウ出来事ヲ

この(4b)の式が表す意味は「少なくとも一つの“x”が“mt'”であり、かつその“x”が“我做面膜”という出来事を持つ」である。そして“做”(我, 面膜)は「私がパックをする」という意を示している。

このように、“在”を[複数の出来事の存在]と、そして“呢”を[持続の状態]として捉えられるのは、出来事が[持続]しているからである。従って、“我在做面膜呢”における動詞の“做”が有する[持続]の意味特徴が“在”と“呢”の成立を根底から支えていると考えるに到りえる。

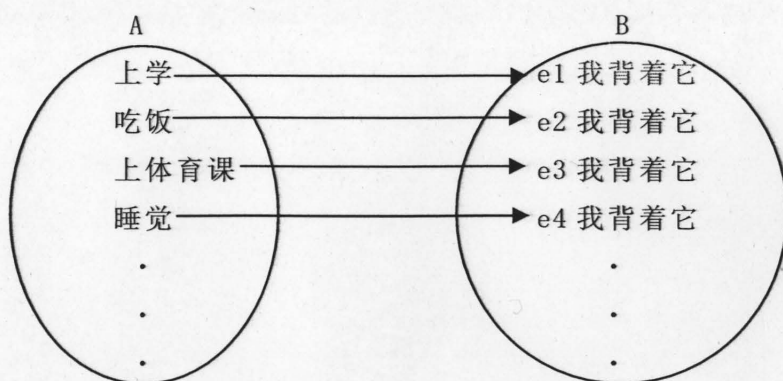
次の(5)では三行目の“我时时刻刻都在背着它”(どんな時でもずっと背負っているんだ。)と二行目からの“我上学背着, 我吃饭也背着, 我上体育课也背着, 我睡觉也背着”(僕は登校の時に背負っていて、ご飯の時も背負っていて、体育の授業でも背負っていて、寝る時にも背負っていて)の部分に注目されたい。

(5) 妈, 您不知道啊, 我跟您说, 就比如说璐璐吧, 她 80 斤, 我呢, 110 斤, 我要比她多背 30 斤的面口袋吧, 我上学背着, 我吃饭也背着, 我上体育课也背着, 我睡觉也背着, 我时时刻刻都在背着它, 您说, 我能不补充点儿卡路里吗?(テレビドラマ《家有儿女 第四部》第 55 話)

ここでは“我时时刻刻都在背着它”の“在”について考える。そこでこの文の前方に生起する“我上学背着, 我吃饭也背着, 我上体育课也背着, 我睡觉也背着”に留意されたい。これらを見ると、全てに“背着”が存在していることに気づく。従って、この四つのどの出来事を観察しても、“我背着它”という出来事が変化せず存在していると理解することができる。更に“我时时刻刻都在背着它”の“在”の前方には“都”が生起しているので、“我时时刻刻都在背着它”において“我背着它”という出来事が複数存在していることを容易に推論しえる。よって、“我时时刻刻都在背着它”の“在”は、“我上学背着”、“我吃饭也背着”、“我上体育课也背着”、“我睡觉也背着”といった四つの出来事が例外なく存在していることを様態的に示している、と解釈できる。

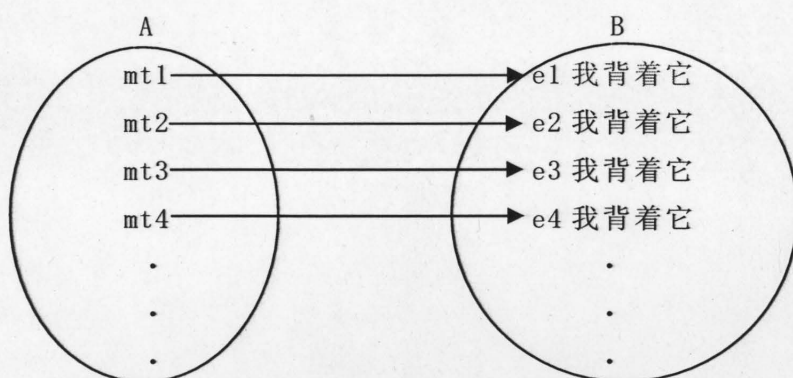
そこで(5)の“我时时刻刻都在背着它”は以下のように図示することができる。

(5a)



そして(5a)の集合 A の要素を抽象化して“mt”とすると,

(5b)



となる。まず(5a)における A の集合の要素を見ると、四つの“mt”が要素として配列されている。つまり、“上学”、“吃饭”、“上体育课”、“睡觉”である。これらはすべて、ある一つの様態的な時間点である。次に B を見られたい。この集合における要素は四つとも“我背着它”という出来事である。というのは“我背着它”が論理上、無限に[持続]しているからである。そして集合 A から集合 B に向かって延びる矢印は A から B への写像を示すので、様態時間“mt”から“我背着它”という出来事に写像されていることが分かる。上述したように、“在”は[複数の出来事の存在]の意を表わすので、A の要素が一つ以上 B の要素へ写像されなければならない。しかしながら、(5)の“我时时刻刻都在背着它”には“时时刻刻”と“都”が生起しているため、すべての“mt”がすべての“我背着她”という出来事に対して写像、即ち全単射(bijection)する必要があると考えると、全称量化子(universal quantifier)を用いて、

(5c) アル ～ガ 背負ウ ～ガ ～ヲ

$\forall x [mt' (x) \rightarrow \text{有}' [x, \text{背}' (我, 它) \& \text{有}' \{ \text{背}' (我, 它), \text{着} \}]]$

アル ～ガ ～トイウ様態ニ

持ツ ～ガ

～トイウ出来事ヲ

と表すのが妥当である。ここでの“ $\forall x$ ”は「全ての“x”についていうと」の意味であり、その後に続く“ $mt' (x)$ ”は“x”が“mt”である」という意を示している。“ \rightarrow ”の後に続く“有’ [x, 有’ {背’ (我, 它), 着}]”という式は、“x”

が“我背着它”という出来事を持つ」という意を表す。そして，“→”は「含意」(implication)の意を表すので，“mt’ (x)”が“有’ [x, 有’ {背’ (我, 它), 着}]]”を「含意」していると見なす。

故に，(5c)の式全体は，「すべての“x”に対して，その“x”が“mt’”であるならばその“x”が“我背着它”という出来事を持つ」という意を表しているとして理解できる。

また“背’ (我, 它)”は「僕がこれを背負う」という意味を，“有’ {背’ (我, 它), 着}”は「それ(僕がこれを背負う)が[持続]という様態にある」という意を示している。

注目すべきは，このように“在”が[複数の出来事の存在]の意を表現しえるのは，概念上，出来事が量化していなくてはならない，ということである。言い換えると，“我背着它”という出来事は[終息]することなく[持続]しているのである。そのため“背着”は重要な役割を果たしている。ここでの“背”という動詞は，論理的な角度からいうと，一度背負うとその動作は[終息]するため，背負うという動作がそれ以上[持続]することがない。しかし，背負った後の結果は[持続]することができるので，[持続]の意を表す時態助詞の“着”を伴って，“背”の後の結果を[持続]させることができる。従って，このように“背着”が[持続]の出来事を形成することによって，概念上，幾つもの“我背着它”を観察することが可能となり，“背着”が“在”の[複数の出来事の存在]の意を生じさせるための重要な基礎を造っていると見なしえる。

さて，次節では“正”が[複数の出来事の包括]の意を表し，かつ“正”が生起した文は一律に全称量子子によって解析できることを証明したい。

7.2 “正”の解析

本節では“正”は[複数の出来事の包括]の意を示すことを明らかにする。重要な点は，“正”が生起するための前提条件は，出来事が[終息]せず，それを複数の概念として捉えることができる，ということである。そこで，本節と関連すると思われる“正”の用法を他の研究者の記述の中から取り出して，以下の如く簡潔に示すことにしたい。

表一[五名の研究者による副詞“正”の解釈]

研究者	“正”の解釈
1. 王还主编(1997:1137)	動作が <u>進行中</u> ，或いは状態が存在し続けていることを表す。
2. 侯学超编(1998:741)	動作が <u>進行中</u> であること，状態が <u>持続中</u> であることを表わす。

3. 吕叔湘主编(1999:670)	動作が <u>進行中</u> 、或いは状態が <u>持続中</u> であることを表わす。
4. 李科第(2001:666)	動作行為がちょうど <u>進行中</u> 、或いは <u>続いている状態</u> にあるということを表わす。
5. 张斌主编(2001:716)	動作、或いは状態が <u>持続中</u> であることを表わす。

上の表一が示すように“正”は[持続]や[進行]といった言葉を用いて解釈されている。そして五名の研究者はいずれも[持続中]、又は[進行中]といった記述をしている。これは“正”を[複数の出来事の包括]と解釈するための助けとなる。つまり、本節で主張する[複数の出来事の包括]の「包括」は、他の研究者が言う「持続中」や「進行中」の「中」に等しいと考えるのである。というのは、“正”の生起は、複数の出来事をすべて様態的に捉えたことを意味する、と考えるからである。では、以下、実際に例を挙げて“正”が果たす意味役割を明らかにさせよう。用例は(6)から(12)までの七つである。まず(6)の文について考えたい。

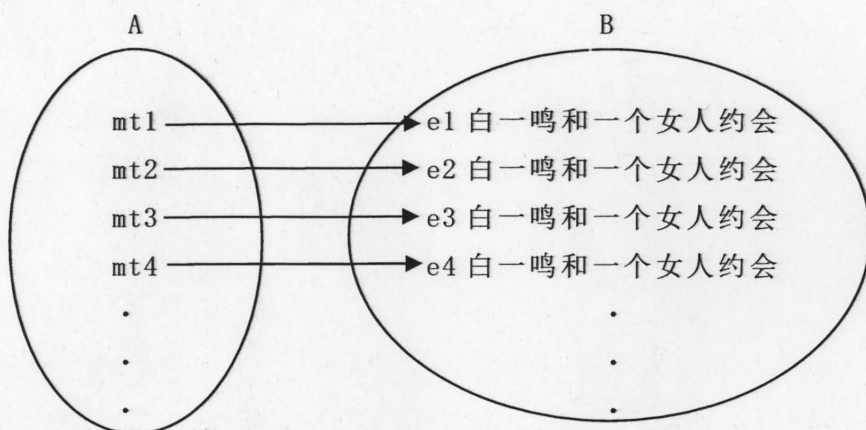
(6) 别问我是谁，也别问我是怎么知道你的电话号码的。快来鸿福酒楼，白一鸣正和一个女人约会呢。(テレビドラマ《鉄面歌女》第17話)

(私が誰であるかを聞く必要はない。またどうしてあなたの電話番号を知っているかもね。すぐ鴻福酒楼に來なさい。白一鸣はちょうど女と会っているわ。)

この文は何者かが“白一鸣”の婦人に電話をかけて、夫の浮気を密告した場面である。従って、“白一鸣和一个女人约会”という出来事に“正”を用いることにより、“白一鸣和一个女人约会”という出来事がちょうど行われていることをはっきりと認識することができる。つまり“正”を用いて、概念上、複数の“白一鸣和一个女人约会”という[持続]の出来事をすべて纏めて捉えることにより、禁断なる浮気の行為を際立たせて表現したといえる。そこで“正”が生起するためには、“白一鸣正和一个女人约会呢”における動詞の“约会”が、論理上、際限なく[持続]する必要があることに気づく。

また、“白一鸣正和一个女人约会呢”の文は[持続の状態]の意を表す“呢”が生起しているので、(4)の“我在做面膜呢”の考察で言及したように、複数の出来事が「同値」の関係、つまり複数の“白一鸣和一个女人约会”という命題内容が変化することなく[持続]している状態にある、と理解できる。故に、“白一鸣正和一个女人约会呢”は以下のように図示することができる。

(6a)



(6a)の図が示すように“mt1”、“mt2”、“mt3”、“mt4”のすべてが“白一鸣和一个女人约会”という出来事に写像されている。従って、ここでのAからBへの写像は、7.1の(5)の文で解析した“我时时刻刻都在背着它”と同様に全単射を行っていることが分かる。

そこで全称量化子を用いると“白一鸣正和一个女人约会”は以下のように表記することができる。

(6b) アル ～ガ

スル ～ガ

$\forall x [mt' (x) \rightarrow \text{有'} [x, \text{和'} [白一鸣, 女人, \text{有'} \{约会' (白一鸣), 女人\} \& \text{持ツ} \simガ \simヲ$

アル ～ガ ～ト

持ツ ～ガ

スル ～ガ

有' {约会' (女人), 白一鸣}]]]

持ツ ～ガ ～ヲ

～トイウ状態ニ

～トイウ出来事ヲ

これは「すべての“x”に対して、その“x”が“mt'”であるならば、その“x”が“白一鸣和一个女人约会”という出来事を持つ」と読むことができる。“约会' (白一鸣)”は「白一鸣がデートをする」という意味を、“约会' (女人)”は「女がデートをする」という意味を、そして“有' {约会' (白一鸣), 女人}”は「それ(白一鸣がデートをする)が女という対象を持つ」という意を示し、“有' {约会' (女人), 白一鸣}”は「それ(女がデートをする)が白一鸣という対象を持つ」という意を示す。更に“和' [白一鸣, 女人, 有' {约会' (白一鸣), 女人} & 有' {约会' (女人), 白一鸣}]”は「白一鸣が、女と、白一鸣が女とデートをし、かつ女が白一鸣とデートをするという状態にある」という意を表している。

この“正”の解釈で重要なことは、“正”は[持続]の一点を捉えるのではなく、[持続]の全体を捉える、ということである。従って“正”が生起する文は、発話時間の前後において複数の出来事が行われていることを許容する“最近”を用いて、

(6c) 因为我最近啊正准备换个房子，可是还没找到。(テレビドラマ《等待绽放》第2話)

(というのは、おれ最近さ、ちょうど住む部屋を換える準備をしているんだ。だけど、まだ引っ越し先が見つからなくてね。)

といった文を造ることができる。ドラマ《等待绽放》によると、この場面は、発話者が電話をしているところであり、“准备换个房子”という出来事がその現場において具体的に行われていない。故に、“准备换个房子”は“最近”の間において何度も行われていると考えることができる。従って“正”は[持続]の一点ではなく、複数の出来事を包括するといった解釈の方が妥当であると見なしうる。

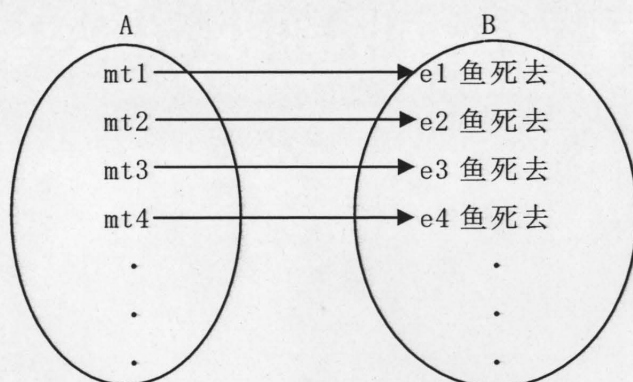
また、瞬間動詞でも、出来事を複数として捉えられる際には“正”を用いることができる。袁莉容等(2010:168)は動作が反復したり、或いは、動作主が集団である場合、瞬間動詞が生起する文でも“正”を生起させることができると主張した。例を一つ引用しよう。

(7) 池塘里的鱼正一条条地死去。

(池の魚が正に一匹一匹と死んでいる。)

この文における“死去”は瞬間的な意味特徴を有する動詞である。しかし“一条条”の生起により“鱼”が複数存在することになるので、“鱼死去”という出来事が複数であることは確かである。従って[複数の出来事の包括]の意を示す“正”を用いて、概念上“鱼死去”という出来事を様態的にすべて一纏めにして捉えることができると判断しえる。そのため“池塘里的鱼正一条条地死去”は以下のように図示することができる。

(7a)



この図から複数の“鱼”が“死去”をすることで、“鱼死去”という出来事が複数に及んでいることが分かる。従って“正”の生起は、この複数の出来事をすべて包括したことを意味すると見なしうる。では続けて全称量化子による解析も行

おう。

(7b) アル ～ガ 死ヌ ～ガ

$\forall x [mt' (x) \rightarrow \text{有}' \{x, \text{死去}' (魚)\}]$

持ツ ～ガ ～トイウ出来事ヲ

この(7b)の式は「すべての“x”に対して、その“x”が“mt'”であるならばその“x”が“魚死去”という出来事を持つ」と読むことができる。“死去’(魚)”という命題は「魚が死ぬ」という意味である。

さて今度は(8)の例について検討しよう。

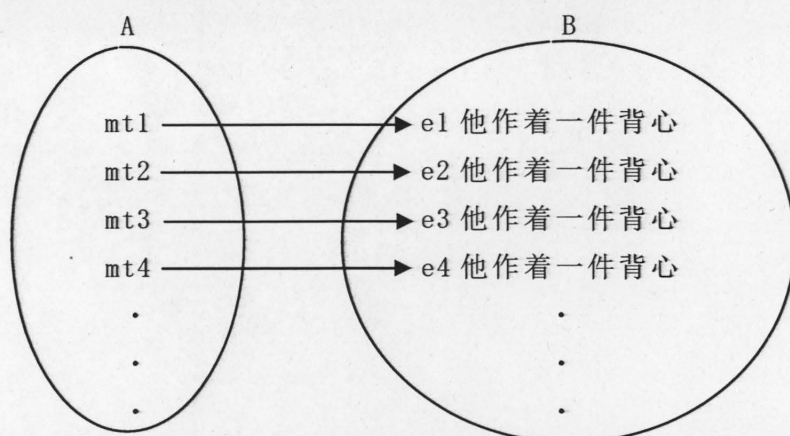
(8) 現在、他正作着一件背心，戏台上丫环所穿的那种。(小説《新編老舍文集(第2卷)》400頁)

(今、彼はちょうどチョッキを一着作っている。それは劇で召使いの娘が着るようなやつである。)

ここでは“他正作着一件背心”における“正”について詳述する。ここでの“正”の運用は“他作着一件背心”という出来事をすべて包括する操作を行ったことを意味する。このような操作を行うためには、“他作着一件背心”という出来事が[持続]してなければならない。そして、この“他作着一件背心”の[持続]を成立させるためには、“作”の後方に[持続]の意を表す時態成分の“着”が後続していることがポイントとなる。なぜなら、持続動詞の“作”は数量詞の“一件”と結合すると、“作”の動作は量化して必ず[終息]する動作となる。だが、チョッキ一着分(“一件背心”)を造り終えるまでの間は、“作”という動作が始まった後の様態が[持続]しえるので、“着”を用いて、“他作一件背心”が一定の間[持続]していることを明示できる。よって、概念上“他作着一件背心”という出来事を複数抽出することが可能となり、“正”を用いて一定の間[持続]し続ける“他作着一件背心”という出来事をすべて包括することができるのである。

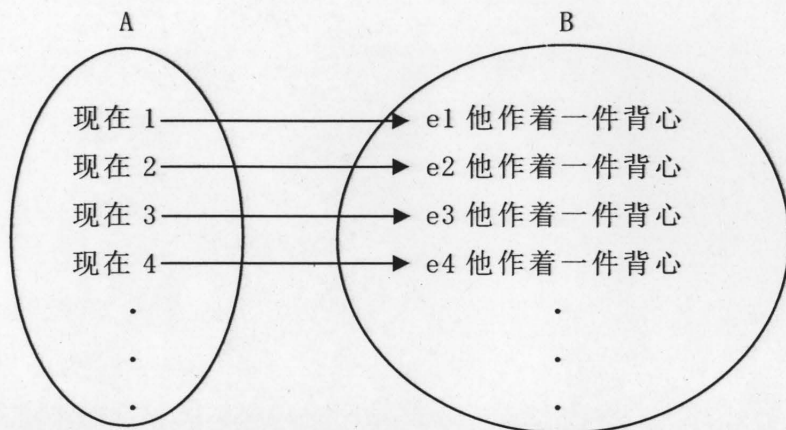
そこで、“他正作着一件背心”を以下の(8a)のように図示してみることにしたい。この(8a)における写像の操作も、(6a)や(7a)と同様に全ての“mt”が全ての出来事に一つずつ単射して、全単射となっていることが看取できる。

(8a)



この集合 A の要素はいずれも “mt” だが、これらは全て “現在” に置き換えて示すことができる。

(8b)



全称量子子による分析は以下のようになる。

(8c) アル ～ガ 作ル ～ガ ～ヲ アル ～ガ ～トイウ量ニ
 $\forall x$ [mt' (x) \rightarrow 有' 【x, 作' (他, 背心) & 有' {作' (他, 背心), 一件}&
 持ツ ～ガ

アル ～ガ ～トイウ様態ニ
有' [有' {作' (他, 背心), 一件}, 着]]

～トイウ出来事ヲ

これは「すべての“x”に対して、その“x”が“mt’”であるならばその“x”が“他作着一件背心”という出来事を持つ」と読むことができる。“作’（他，背心）”は「彼がチョッキを作る」の意を，“有’{作’（他，背心），一件}”は「それ（彼がチョッキを作る）が一着という量にある」の意を，そして“有’[有’{作’（他，背心），一件}，着]”は「それ（彼がチョッキを一着作る）が[持続]という様態にある」といった意味を表している。

今度は心理活動動詞の“想”によって構成された出来事が“正”によってすべて包括される例を挙げる。論点となる箇所は(9)の一行目の“我现在就给四姐打电话”と六行目の“我正想给你打电话呢”である。

(9) A:行,我现在就给四姐打电话!让四姐听听你们都说她什么!

B: 不是，你给素晓打电话也没有用啊，素晓自个儿就占百分之二十这事本来就不对啊，再说了，那素晓都嫁人了，本来都不姓赵了，她还有工作，还在咱们店里持股，真是！你还给人打电话，小算盘把你都算进去了。真是！

C:哥，说谁呢？我这耳根子怎么那么热呀。

A: 四姐，你来得正好，我正想给你打电话呢。我哥跟我嫂子不但背地里说你，还挑拨咱们之间关系！（テレビドラマ《傻春》第24話）

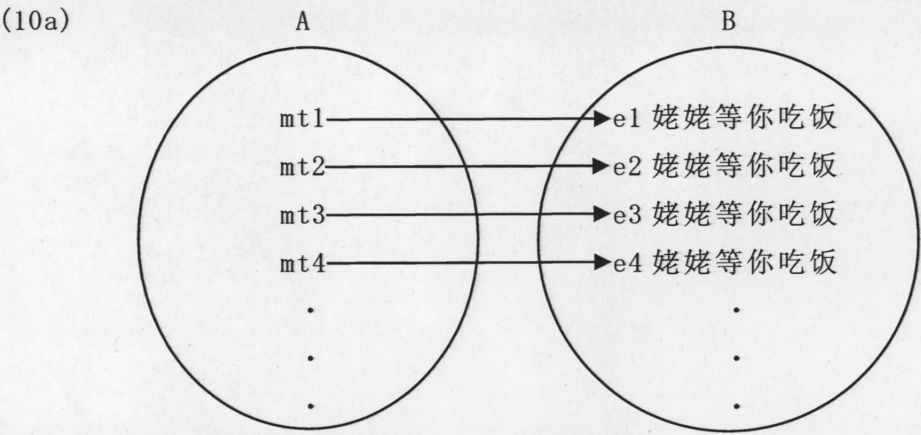
この(9)の例では“我正想给你打电话呢”(私はちょうどあなたに電話をしよう

が“我想给你打电话”という出来事を持つ」と読むことができる。“打’（我，电话）”は「私が電話をかける」という意味を，“有’（电话，一个）”は「その電話が一本という数量にある」という意味を，“到’（一个，你）”は「その一本があなたに到る」という意味を，“给’ {我，你，打’（我，电话）&有’（电话，一个）&到’（一个，你）}”は「私が，あなたに，私が電話を一本かけ、かつその一本があなたに到るということをする」という意味を，そして“想’ [我，给’ {我，你，打’（我，电话）&有’（电话，一个）&到’（一个，你）}]”は「私が，私があなたに電話を一本かけるということを望む」という意を示している。

さて今度は(10)の考察へ移行する。ここでは“姥姥正等你吃饭呢”（おばあちゃんがちょうどあなたが食事をとるのを待っている）が主たる考察対象である。

(10) 你怎么还不走啊！爸爸，那个，姥姥饭都做好了，正等你吃早饭呢。然后我帮你把这个垃圾扔了吧，我正好要去上班呢，你快上去吧，姥姥正等你吃饭呢！（テレビドラマ《宝贝妈妈宝贝女》第7話）

(10)の例の引用先であるドラマ《宝贝妈妈宝贝女》によると，この場面は三人の人物が登場する。それは父、娘、青年である。そして発話者は娘であり，この娘は父親の二女という設定となっている。ここでは発話者である二女が，自分の父親を家に戻らせるように努めているところである。というのは，早朝，発話者の友人である青年が花束を抱えて自宅の前へ現れたからである。以前は三女と交際をしていたはずのこの青年は，近頃，発話者である二女に接近し始めたのである。そこで発話者の二女は頑固な父とキザな青年との激しい衝突を恐れ，(10)のようなセリフを言うに到ったのである。このような場面では，“姥姥等你吃饭”という出来事がいかに大切であるのかを父親に伝え，喧嘩の勃発前に父に口実を与えて家に戻らせる必要が大いにあるので，“正”の運用が最適であるといえる。つまり，[複数の出来事の包括]の意味を表す“正”を用いて，幾つもの“姥姥等你吃饭”を包括し，その出来事のタイムリー性を突出させているのである。そして，“等”が[持続]の意味特徴を保持し，かつ[持続の状態]の意を示す“呢”が生起していることが看取しえる。故に，集合は次のように記すことができる。



この二つの集合の関係により、すべての“mt”において例外なく“姥姥等你吃饭”が生じていることが分かる。では、この“姥姥正等你吃饭”を全称量化子によって分析してみよう。

(10b) アル ～ガ

トル ～ ガ ～ ヲ

$$\forall x [\text{mt}'(x) \rightarrow \text{有}'[x, \text{等}'\{\text{姥姥}, \text{吃}'(\text{你}, \text{饭})\}]]$$

待ツ　　～ガ　　～トイウコトヲ

持ツ ～ガ

～トイウ出来事ヲ

これは「すべての“x”に対して、その“x”が“mt”であるならば、その“x”が“姥姥等你吃饭”という出来事を持つ」と読むことができる。“吃’（你，饭）”は「あなたが食事をする」という意を，“等’{姥姥，吃’（你，饭）}”が「おばあちゃんが、それ（あなたが食事をする）を待つ」という意味を示している。

次の(11)では“正”と“在”が生起した文について考えてみよう。

(11) 我现在正在调查，可是结果都不理想。(テレビドラマ《女人的颜色》第39話)

(私は最近まさに調査をしていますが、結果はみな満足のいくものではありません。)

“我现在正在调查”には“正”と“在”が生起している。従って，“正”が示す[複数の出来事の包括]が成立するためには，“在”の[複数の出来事存在]が前提条件に、そして“在”の[複数の出来事存在]の成立には，“我调查”という出来事が[持続]を保持していることが前提条件に、更に，“我调查”という出来事の[持続]は、動詞の“调查”が[持続]の意味特徴を有していることが前提条件である、と演繹して推論するに到りうる。よって、論理上“我正在调查”の生起プロセスは三つの段階を得ると仮定することができる。要するに、

① “我调查” → ② “我在调查” → ③ “我正在调查”

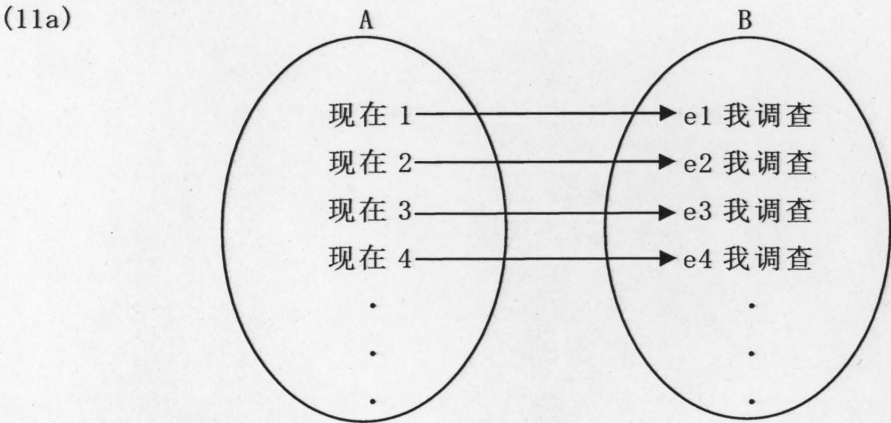
である。注目されたいのは、“我现在正在调查”における後節の“可是结果都不理想”には“都”が生起しているので、“我调查”という出来事は一つ以上存在すると推測できることである。そして“正”はすべての出来事を包括する役割を担っているので、“我在调查”がすべて包括されることになる。

もう一つ留意されたいことは、(11)では副詞の“正在”を“正”と“在”の二つに分けて分析した所以である。このような見解に到ったのは、Chao(2011(1968):787-788)の記述が拠所となっている。Chaoは、時間副詞を三つに分けて論じた。この区分は意味特徴と音節を意識している。つまり、一つは、単音節の時間副詞である。いま一つは、二音節の時間副詞である。そして三つ目は、二音節であるが、意味上、二つの副詞に分けて解釈すべき時間副詞である。

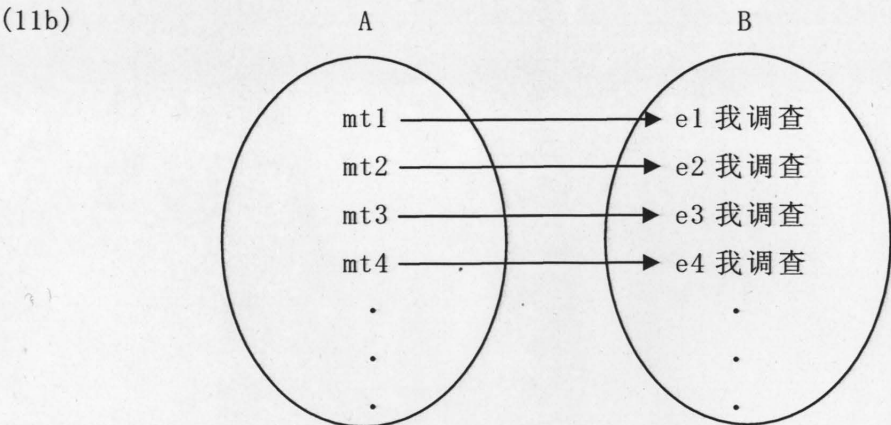
“正在”はこの第三のタイプに分類されている。従って、Chao の記述は，“正在”を“正”と“在”に分けて分析する必要性を示唆していると思われる。また、

Chao(2011(1968):788)によると,“正在”が表す意味は‘just at……-ing’である。故に“正”は“just”の意として「出来事がちょうどである」ということを示し,“在”は“at”の意として「出来事の存在場所を導く」という役割を果たし,そして“ing”は「出来事の持続」といった意味を表す,と考えることができる。これは,Chao(2011(1968):787)では“正……呐”を「just……-ing」と解釈している点からも妥当な推論であるといえる。

では,再び“我正在调查”の文に視点を戻そう。これまでの考察を基にして考えると,“在”は出来事の存在場所を導く役割を果たしえると考えられる。しかしながら,“我正在调查”における“我调查”という出来事はどこで行われているのかが判然としない。というのは,(11)における“调查”は,通常,様々な手段を以って行われるので,その出来事地点は複数に及び,一か所に定めることは困難であると考えられるからである。よって,この文における“在”の目的語は省略されたと解しえる。さて,以上の考察を踏まえると“我现在正在调查”は次の様な集合を構成することができる。



この図から“现在”において“我调查”という出来事が複数存在し,かつ,その“我调查”は全ての“现在”において生じているということが分かる。従って,(11a)の“现在”を抽象的に記すと(11b)のようになる。



では次に“我现在正在调查”を全称量子子で表現しよう。

(11c) アル ～ガ スル ～ガ

$\forall x$ [mt' (x) → 有' {x, 調査' (我)}]

持ッ ～ガ ～トイウ出来事ヲ

この式は「すべての“x”に対して、その“x”が“mt'”であるならば、その“x”が“我調査”という出来事を持つ」という意を表している。ここでの“調査' (我)”は「私が調査する」という意味を表している。

次は(12)の“正在等着呢”(ちょうどあそこで待ち続けております)における“正”と“在”について検討しよう。

(12) A: 少爷回来了, 少爷, 有位姓陈的先生等您半天了。

B: 陈先生, 什么事?

A: 说是曾家有一箱刻了字的骨头在他那儿, 听说您用得上, 所以带过来看看, 换点钱花花。

B: 哈哈, 真是踏破铁鞋无觅处啊! 人呢?

A: 正在等着呢! (テレビドラマ《京华烟云》第44話)

“正在等着呢”の“等”は論理的な観点からいうと、[持続]の意味特徴を有しているので、時態助詞の“着”を後続させて、“等”の[持続]が保持されていることを明示することができる。そして“等着”は[持続]の出来事を構成するので、更に[複数の出来事存在]の意を表す“在”を用いることができる。これにより、意味上“他等着你”という出来事が複数存在すると考えられる。

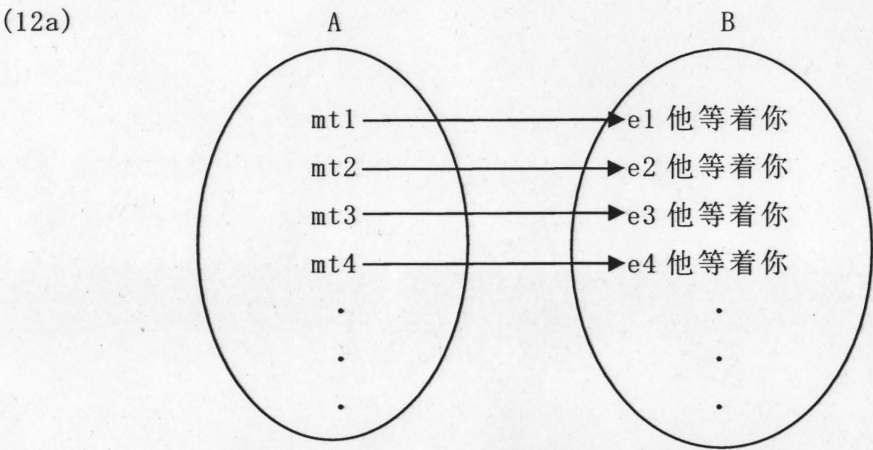
また、(12)の“正在等着呢”は、(11)の“我现在正在调查”とは異なり、出来事存在場所をはっきりと理解することができる。なぜなら、(12)の引用元であるドラマ《京华烟云》を確認すると、そのシーンにおいて、実際に発話者のやや遠方で“他在等着你”という出来事が行われていることを容易に看取しえる。しかも、発話者Bが、(12)の五行目が示すように、“人呢?”(そいつはどこにいるんだ)と聞くと、それに対して発話者Aは、“正在等着呢”と発話する際に、その出来事が行われている場所に向かって指をさしている。従って、“在等着”は「彼が、あそこにおいて、彼があなたを待ち続けている」という意を含んでいると解釈できる。これにより、Chao(2011(1968):788)が“正在”を英語で解釈する際に“at”を用いた所以を理解することができる。

さて、これで“正在等着呢”の内、“在等着”までの構成プロセスを理解することができた。上述の如く、この“在等着”という出来事は複数存在していると考えられるので、これらの出来事をすべて包括することができる。即ち、[複数の出来事存在]の意を表す“正”を用いるのである。これによって、発話時において、意味上、“他在等着你”という複数の出来事がすべて抽出されるので、この“他在等着你”という出来事がとてもタイムリーであると感じえる。というのは、《京华烟云》によると、発話者Bは、日本軍の命令のもと、甲骨文字を収集していたの

であるが、甲骨文字は貴重な文物であるが故、その収集に多大な費用を費やしていた。そんな時、甲骨文字を携えた客が訪ねて来たからである。

また、“正在等着呢”には“呢”が文末に生起しており、“正在等着”が[持続の状態]にあることを明示していると思なされる。

では“正在等着呢”を集合で表現しよう。



(12a)は“在”の意味役割によって“他等着你”という出来事が一つ以上存在し、かつ、“正”の意味役割により“他在等着你”という出来事がすべて包括されていることを示している。よって、“在”と“正”は明らかに異なった意味役割を有し、両成分は論理的に矛盾することなく共起していることが看取できる。

最後にこの“正在等着”を全称量子化で記述することにしたい。

$$\begin{aligned}
 (12b) \quad & \text{アル} \sim \text{ガ} \quad \quad \quad \text{待ツ} \quad \sim \text{ガ} \sim \text{ヲ} \\
 & \forall x \left[\text{mt}'(x) \rightarrow \text{有}'[x, \text{有}'\{\text{等}'(\text{他}, \text{你}), \text{着}\}] \right] \\
 & \quad \quad \quad \text{アル} \quad \quad \quad \sim \text{ガ} \quad \sim \text{トイウ様態ニ} \\
 & \quad \quad \quad \text{持ツ} \sim \text{ガ} \quad \quad \quad \sim \text{トイウ出来事ヲ}
 \end{aligned}$$

この式全体は「すべての“x”に対して、その“x”が“mt'”であるならば、その“x”が“他等着你”という出来事を持つ」と読むことができる。“等' (他, 你)”は「彼があなたを待つ」という意味を表し、“有' {等' (他, 你), 着}”は「それ(彼があなたを待つ)が[持続]という様態にある」という意を示している。

7.3 第七章の結び

本研究は集合論と量子化を用いて副詞“在”と“正”が表す意味を考察し、両成分の差異を明らかにした。即ち、“在”の[複数の出来事の存在]の意は、通常、存在量子化によって解釈することができ、一方、“正”の[複数の出来事の包括]の意は全称量子化によって解析しえることを明示した。

注

1) 本章は青木(2014b)の『時態成分“在”と“正”の意味と論理』に加筆と修正を行ったものである。

2) “正”がこれまでどのように解釈されていたのかについては、本稿の7.2で言及する。

3) 論理式における括弧は“()”、“{ }”、“[]”、“【 】”の四つを使用する。そして“()”が最も作用域(scope)が狭く、“【 】”が最も作用域が広いと仮定する。即ち下記の(a)のように考える。

(a) () < { } < [] < 【 】

この(a)は、“()”は“{ }”より作用域が狭く、“{ }”は“[]”より作用域が狭く、“[]”は“【 】”より作用域が狭いことを表している。また、存在量化子と全称量化子の作用域は一律に“[]”を用いて表すことにする。

4) ここでの見解は龔千炎(1995:27)の注釈を参照した。即ち、龔千炎は[進行]の意を示す“在”についての論考で、多くの同類の個体が、絶えず同じ動作行為をしたり、変化している場合、“在”を用いることができる、といった見解を述べている。

5) “呢”を[持続の状態]と解釈したのは朱德熙(1982:209)を参考にした。

本稿は主として論理的な観点から副詞“在”について論じた。最後に各章の要点を確認しておこう。

第一章では、従来の研究者は副詞“在”を如何に解釈しているのかを確認し、その記述の中から検討の余地があると思われる点を提示した。それは以下の四つである。

第一に、副詞“在”に対して多くの研究者が「進行」という言葉を用いて解釈していることである。

第二に“在”は[現在]、[過去]、[未来]のいずれにおいても生起しえることである。従って、“在”は時態を表現することが可能であると推測できる。

第三としては、“在”は、“经常”、“总”、“一向”、“一直”、“还”、“又”、“已经”といった成分と共に起ることができ、これらの成分によって、“在”が修飾する出来事の長期的な存在を保証していることである。

第四の問題点は、副詞の“在”と前置詞の“在”は共に状況語となる点からして、時に両成分の境界線は曖昧となる可能性があるということである。

そして第二章では、意味上、副詞“在”は、前置詞“在”のように、出来事存在場所を示す目的語を伴っていることを主張した。つまり、“在”は副詞、前置詞を問わず、いずれも、述連構造における一番目の動詞と見なし、かつ、“在”の後方には、意味上、必ず目的語を伴っていると考えるのである。考察の対象となった文は以下の三タイプである。

- ① 出来事地点が既知の情報と見なされて目的語が省略された“在”構文
- ② 出来事地点が特定化できずに目的語が省略された“在”構文
- ③ 目的語が生起した“在”構文

また、“在”の文に含まれる各成分の意味役割、及び意味関係を明らかにするため、松村(2005)の理論を基に、命題論理と述語論理によって構成される論理式を用いて解析した。

第三章では、“在”構文の論理式の整合性の向上を図り、オートマトン、状態遷移図、論理回路、更にはタイプ理論を運用した。そして最後には、談話概念の視点から論理式の生成過程を検討した。

第四章においては、副詞の“在”が生起する文を[現場進行]と[非現場進行]の二タイプに区分して考察を行った。即ち[現場進行]の文は、出来事が発話時間において存在している点に注目が置かれた[進行]であり、出来事地点は一か所である。一方、[非現場進行]は、発話時間に制限されず、出来事が複数存在している点に着眼した[進行]であるが故、出来事地点が複数に及ぶ。また、[現場進行]の文は、出来事之多発を保証する成分が生起しないが、[非現場進行]の文には、出

来事の多発を保証する成分(“最近”、“現在”、“每天”、“一天到晚”、“一直”、“六年”)が生起していることが判然とした。なお、ここでも論理式による解析を試みた。

第五章では、“在”が表す[進行]の概念が、論理的に如何なるしくみによって成立しているのかを証明した。主たる考察方法は、副詞“在”が生起する文を五つのタイプ(①複数の時間概念から[進行]を明確に判断できる例、②複数の場所概念から[進行]を明確に判断できる例、③複数の動作主から[進行]を明確に判断できる例、④複数の動作行為の対象から[進行]を明確に判断できる例、⑤他の文脈から[進行]を明確に判断できる例)に分けて分析し、“在”が示す[進行]とは厳密に[複数の出来事の存在]の意であることを明示した。

重要なことは、“在”が表す[複数の出来事の存在]の概念は、動詞の[持続性]や、文中の他の成分や前後の文脈により、出来事が「数量化」していることによって成立している、ということである。

第六章は、副詞“在”は[進行]の意味を表す時態副詞であるという仮説のもと、“在”と時制の関わりについて詳述した。その結果、絶対時間から考察すると、発話時間と時態副詞“在”が生起する文(出来事時間)との時間関係は、[過去]における[進行]、[現在]における[進行]、或いは[未来]における[進行]を表現できることが明瞭となった。一方、相対時間から考察すると、参照時間と時態副詞“在”が生起する文(出来事時間)との時間関係は、[簡単]の関係を構成することを明らかにした。また、ここでも命題論理と述語論理を併用した論理式による解析を行い、“在”構文に含まれる意味を厳密に表記した。最後には、集合論を運用し、時間体系の観点から“在”構文の生起プロセスを検討した。つまり、“在”構文の成立は、時相表現から時態表現、そして時態表現から時制表現というプロセスを辿る、ということである。

第七章では、集合論と量子子を運用して副詞“在”と副詞“正”が表す意味役割を考察し、両成分の差異を明らかにした。結果、“在”の[複数の出来事の存在]の意は一般的に存在量子子によって解釈することができ、一方、“正”が示す[複数の出来事の包括]の意は全称量子子を用いて解析しえることを証明した。

筆者は学部時代から神奈川大学に在学していたため、九年目となるこの今、なんとか博士論文を書き上げることができ、言葉では形容し難い思いがある。特に指導教員の松村文芳先生には、学部一年時から現在に至るまでの九年間、毎日の如く、本当に本当に多くのご指導を賜った。この場を借りて心から感謝の念を表したい。有り難うございました。加藤宏紀先生、彭国躍先生(五十音順)には学部や大学院の授業、或いは課外授業にてご指導いただき、大変お世話になった。また、学部時や授業外においては、大里浩秋先生、鈴木陽一先生、孫安石先生、村井寛志先生、山口建治先生(五十音順)からも多くのことを学び、貴重なご指導、

ご助言をいただき感謝している。そして、常に応援してくれた両親、祖父母に感謝の意を表したい。

今後も熱い情熱を以て中国語の文法研究に勤しみ、それを多くの人々と享受しえる人物となれるよう日々努力していきたいと思つて已まない。

参考文献

- 青木萌 2013a. 「現代中国語の統語成分“在”の用法と意味」, 『神奈川大学言語研究 2012』。神奈川大学言語研究センター。
- 2013b. 「時態成分“在”の時制構造における意味と論理」, 『人文研究第 180 集』。神奈川大学人文学会。
- 2013c. 「時態成分“在”の生成過程」, 『人文研究第 181 集』。神奈川大学人文学会。
- 2013d. 「副詞“在”が表す二つの進行性」, 『連語論研究<2>』。大東文化大学国際連語論学会。
- 2014a. 「副詞“在”の意味解釈と問題点」, 『言語と文化論集第 20 号』。神奈川大学大学院外国語学研究科。
- 2014b. 「時態成分“在”と“正”の意味と論理」, 『神奈川大学言語研究 2013』。神奈川大学言語研究センター。
- 2014c. 「時態副詞“在”が表す二つの進行の論理意味分析」, 『人文研究第 182 集』。神奈川大学人文学会。
- 2014d. 「現代中国語における時相構造の「量化」現象」, 『人文研究第 183 集』。神奈川大学人文学会。
- 伊原大策 1982. 「進行を表す「在」について」, 『中国語学』。
- ウィトゲンシュタイン著、野矢茂樹訳 2003. 『論理哲学論考』。東京: 岩波文庫。
- 小倉久和 1996. 『形式言語と有限オートマトン入門』。東京: コロナ社。
- オールウッド・アンデソン・ダール著、公平珠躬・野家啓一訳 1979. 『日常言語の論理学』。東京: 産業図書。
- 朱继征 2000. 『中国語の動相』。東京: 白帝社。
- 杉村博文 1994. 『中国語文法教室』。東京: 大修館書店。
- 杉本孝司 1998. 『形式意味論』。東京: くろしお出版。
- 松村文芳 2005. 「「把構文」と「被構文」に用いられる「给」の意味と論理」。大東文化大学語学教育研究所。
- 2010. 神奈川大学大学院中国語学特殊研究Ⅲ a/b 講義。
- 2011. 神奈川大学大学院中国語学特殊研究Ⅲ a/b 講義。
- 2012. 神奈川大学大学院中国語学特殊研究Ⅲ a/b 講義。
- 2013. 神奈川大学大学院中国語学特殊研究Ⅲ a/b 講義。
- 2014. 神奈川大学大学院中国語学特殊研究Ⅲ a/b 講義。
- 北京大学中文系 1955、1957 级语言班編 1982. 『现代汉语虚词例释』。北京: 商务印书馆。
- 岑玉珍主编 2013. 『汉语副词词典』。北京: 北京大学出版社。

- 陈平 1988.「论现代汉语时间系统的三元结构」,『中国语文』.1988年第6期。
- 陈前瑞 2008.『汉语体貌研究的类型学视野』.北京:商务印书馆。
- 丁声树等 2009(1961).『现代汉语语法讲话』.北京:商务印书馆。
- 范继淹 1982.「论介词短语“在+处所”」,『语言研究』.1982年第1期。
- 方立 2000.『逻辑语义学』.北京:北京语言文化大学出版社。
- 房玉清 2008.『实用汉语语法(第二次修订本)』.北京:北京语言大学出版社。
- 龚千炎 1995.『汉语的时相时制时态』.北京:商务印书馆。
- 郭风岚 1998.「论副词“在”与“正”的语义特征」,『语言教学与研究』.1998年第2期。
- 侯学超编 1998.『现代汉语虚词词典』.北京:北京大学出版社。
- 李华倬 2010.『基于中国哲学思想的汉语研究』.镇江:江苏大学出版社。
- 李科第 2001.『汉语虚词辞典』.昆明:云南出版社。
- 李晓琪 2005.『现代汉语虚词讲义』.北京:北京大学出版社。
- 刘月华等 2001.『实用现代汉语语法(增订本)』.北京:商务印书馆。
- 卢福波 2010.『汉语语法教学理论与方法』.北京:北京大学出版社。
- 吕叔湘主编 1999.『现代汉语八百词(增订本)』.北京:商务印书馆。
- 马真 2004.『现代汉语虚词研究方法论』.北京:商务印书馆。
- 潘文娱 1980.「谈谈“正”“在”和“正在”」,『语言教学与研究』.1980年第1期。
- 沈家煊 1999.「“在”字句和“给”字句」,『中国语文』.1999年第2期。
- 王还主编 1997.『汉英双解词典』.北京:北京语言大学出版社。
- 徐烈炯 2002.「汉语是话语概念结构化语言吗?」,『中国语文』.2002年第5期。
- 袁莉容 郭淑伟 王静 2010.『现代汉语句子的时间语义范畴研究』.四川:四川大学出版社。
- 张斌主编 2001.『现代汉语虚词词典』.北京:商务印书馆。
- 张谊生 2004.『现代汉语副词探索』.上海:学林出版社。
- 中国社会科学院语言研究所词典编辑室编 2012.『现代汉语词典(第6版)』.北京:商务印书馆。
- 朱德熙 1980.『现代汉语语法研究』.北京:商务印书馆。
- 1982.『语法讲义』.北京:商务印书馆。
- 朱景松主编 2007.『现代汉语虚词词典』.北京:语文出版社。
- Chao, Yuenren. 1968. *A Grammar of Spoken Chinese*. University of California Press.
- Chao, Yuenren. 2011(1968). *A Grammar of Spoken Chinese*. 商务印书馆。

[小説]

- 艾米 2009. 『致命的温柔』。北京:群言出版社。
——2010. 『山楂树之恋』。南京:江苏人民出版社。
——2011. 『云中之珠』。北京:中信出版社。
崔曼莉 2009. 『浮沉 2』。西安:陕西师范大学出版社。
老舍 1998. 『四世同堂』。北京:人民文学出版社。
——2009. 『鼓书艺人』。上海:文汇出版社。
——2009. 『新编老舍文集(第2卷)』。北京:商务印书馆国际有限公司。
赵玫 2010. 『上官婉儿』。天津:天津人民出版社。

[テレビドラマ]

- 《爱的创可贴》(2013)
《艾米加油》(2012, TV 版)
《爱情公寓 第一季》(2009)
《爱情公寓 第三季》(2012)
《宝贝妈妈宝贝女》(2012)
《北京青年》(2012)
《等待绽放》(2013)
《独生子女的婆婆妈妈》(2013)
《儿女情更长》(2012)
《范府大院》(2006, 全 41 話版)
《夫妻那些事》(2012)
《花非花雾非雾》(2013, TV 版)
《家》(2007)
《佳期如梦》(2010, DVD 版)
《家有儿女 第一部》(2005)
《家有儿女 第四部》(2008)
《京华烟云》(2005)
《来不及说我爱你》(2010)
《离婚前规则》(2012, DVD 版)
《女人的颜色》(2012, TV 版)
《傻春》(2011)
《四世同堂》(2007)
《岁月》(2010)
《天真遇到现实》(2013, DVD 版)
《铁面歌女》(2010)

《托马斯&朋友》(2009)
《温柔的背叛》(2009)
《温州一家人》(2012)
《夏家三千金》(2011)
《夜幕下的哈尔滨》(2008)
《蚁族的奋斗》(2011)
《再婚进行时》(2012)
《咱们结婚吧》(2013)
《张小五的春天》(2010)

本稿で用例としては挙げなかったが、副詞“在”の文を研究する上で視聴したテレビドラマは以下のようなものがある。

《AA制生活》(2012)
《爱情公寓 第二季》(2011)
《北京爱情故事》(2012)
《大男当婚》(2012)
《奋斗》(2007)
《浮沉》(2012)
《和空姐一起的日子》(2010)
《家的N次方》(2011)
《家有儿女 第二部》(2005)
《家有儿女 第三部》(2007)
《郎心如铁》(2010)
《裸婚时代》(2011)
《你是我兄弟》(2011)
《偏偏爱上你》(2012)
《闪婚》(2011)
《守望的天空》(2012)
《说谎的爱人》(2010)
《武则天秘史》(2011)
《媳妇的美好时代》(2010)
《媳妇的美好宣言》(2012)
《西施秘史》(2012)
《幸福3+2》(2011)
《杨贵妃秘史》(2010)